



報知六百六十 九号子大改府下 南堀江上通五百何某が娘たやい其を

耻ぬ貞躰ち

水晶の如く見ゆまじも生根の

玉八田玉おてた人の物うすい

病ひ年も珊瑚の十五才小娘

ふから官寄某と刑謀この

真珠たてり其家に同連

合才最初の見込、當りあか

カノ連男ハ昭未入明若玉さ人

あてかぬ小物あひのを初め

かまらぬまが縁付て間もたぬ、心算を三自りる香具名の店先

三五珠の根をわうの子の掛け物箸と人の目脳を掠めたり又外店て物せん

その爪を巡査さんの眼玉おうして縄目の耻位のお蟬玉お

限守りら父母の名迄も撤す

とて暗あき刃行あり

大錦画日新聞 第四十三号

大水堂 狸昇誌

山崎屋

九一

富士愛蔵

修と名